

2012年度IMF-JC女性交流集会【報告】
「金属産業で女性がいきいきと働き続けるために」テーマに開催
2012年4月21日（土）、都内・電機連合会館で



IMF-JC（金属労協）は、2012年4月21日、都内・港区の電機連合会館で、2012年度IMF-JC女性交流集会を「金属産業で女性がいきいきと働き続けるために」とのテーマのもと開催した。3回目となる女性交流集会には、加盟産別・単組・支部から執行委員・職場委員等の女性リーダー56名が参加、3つの先進事例を学ぶとともに、グループワークで活発に議論を行った。

2012年度IMF-JC女性交流集会は、司会の川瀬良彦JC女性連絡会委員（全電線中央執行委員）の開会の辞でスタートした。



司会の川瀬氏

■西原金属労協議長挨拶



挨拶する西原議長

冒頭、IMF-JCを代表して西原浩一郎議長が挨拶に立ち、今回の女性交流集会の目的として、「①これまでの経験や情報交換の場、②JCの政策・制度課題の策定や実現に活かす、③女性リーダー同士のネットワークづくり、の3つがある」と述べた。また、新GUFでの女性参画率について言及、「本年6月に誕生する新GUF『IndustriALL』では、女性参画率30%を達成することを確認している。IMF-JCとしても、世界的な女性参画率に合わせるべく、2010年6月に『女性参画中期目標・行動計画』を策定して一歩前進させている。2010年9月にはいち早く常任幹事会に2名の女性常任幹事を実現したが、2名の女性常任幹事が入ったことにより、会議が活性化し、確実に良く変わっていると実感している」「経営側のグローバル化が進む中で、例えば、EUでは、女性取締役比率のクォータ制が進み、2015年までに30%、2040年までに40%目標も掲げられている。こ

ういう状況の中で、IMF-JCとしても男女共同参画社会の実現に向けて着実に女性参画率をアップさせていきたい。本日の女性交流集會がその一助となることを心から祈っている。本日は、私自身も意識改革をするべく、分科会を初め最後まで一緒に参加していくのでよろしくお願ひしたい」等と述べた。

■先進事例の紹介



パネル討論で挨拶する富高常任幹事

続いて、「先進事例の紹介」をパネル討論形式で行った。富高裕子金属労協常任幹事（電機連合中央執行委員）の進行の下、3名のパネリストから事例報告を受けた。

①職場におけるポジティブ・アクション(女性の活躍推進)



池田 久美子氏

最初に、「職場におけるポジティブ・アクション（女性の活躍推進）」について、池田久美子ダイキン工業（株）人事本部課長から事例報告を受けた。

講師からは、「2001年に総合職・一般職の区分を廃止。総合職への転換のため、従来の仕事に1つ企画する仕事をプラスする、男性の仕事で任せられるものを任せるなど、部門ごとに1人ひとりの仕事を見直した。トップダウンで女性の採用を拡大し、女性の採用比率は技術系が3割、事務系が6～7割。両立支援は、子育て支援ではなく、キャリアアップ支援と位置づけている。2011年1月に、トップからのなぜ女性管理職が増えないか？との提起を受け、プロジェクトを発足させ、管理職対象に、女性部下を育てるマネジメント研修、女性対象にキャリア意識・仕事観醸成の場の設定などに取り組んでいる。上司と部下のコミュニケーションをとり、信頼関係を作ることが重要。」等の紹介を受けた。

②職場におけるポジティブ・アクション(女性の活躍推進)

2番目の事例として、「ワーク・ライフ・バランスの実現」について、三菱重工労働組合中央執行委員の灰塚欣生氏から報告を受けた。



灰塚 欣生氏

講師からは、「年6日、最大60日までの年休積立制度がある。私傷病、家族の傷病の他、育児休業、不妊治療等にも利用できる。キャリアリターン制度は、結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤で利用できる。2012年4月からは1年につき16時間を限度の1時間単位の時間単位年休制度がある。この育児、家族の介護・看護、妊娠、慢性疾患等による通院で活用できる。介護休業は最長1年、別枠で介護勤務制度が1年ある。介護休業は女性の両立支援のつもりだったが、男性の取得が多い。制度の整備と使える環境の整備が必要。時間単位年休は女性組合員の要望が多いが、本部の執行委員は男性ばかりで理解が薄い。執行部の意識を改革し、女性参画を進めることが必要。組合員の声が交渉の力になる。男女双方の声を会社に届けたい。」等の報告を受けた。

③組合活動への女性参画



半沢 美幸氏

3番目の事例として、「組合活動への女性参画」について日立製作所労働組合中央執行委員の半沢美幸氏から報告を受けた。

講師からは、「日立労組では、組合員比率に応じた女性役員の配置をめざすことを運動方針に明記した。支部の議案書にも記載し、それに従って活動している。支部ごとに女性委員会を置いている。一人目の執行委員ができれば後が続く。ローテーションなどの不文律によって、優秀な女性執行委員が継続できないという問題がある。組合役員をおりた後、結婚、出産している女性もいる。結婚、出産を両立できる組合活動にすることも必要ではないか。自分が組合活動を続けられたのは、支部の委員長が仕事をさせてくれたこと、女性の仲間がいたこと、お兄ちゃんのような人がいたこと、夫に組合役員経験があり、組合活動に理解があったことなどがある。今、女性の役員が少ないのは、自分が組合活動の楽しさを語ってこなかったからではないかとの思いがある。」等の報告を受けた。

■グループ・ワーク、グループワーク報告



第1グループ



第2グループ

続いて、11のグループに分かれてグループワークを行った。グループワークでは、①職場におけるポジティブ・アクション、②ワーク・ライフ・バランス、③組合活動への女性参画、の3つの課題について、参加者が日頃感じていることなどを各自報告し、相互に意見交換を行った上で、「女性がいきいきと働き続けるために解消すべき課題」と「そのため



第7グループ



第4グループ



第10グループ



第6グループ



第5グループ



第11グループ



第8グループ

に何をすべきか」を議論した。

各グループでの議論内容を報告しあうグループワーク報告では、「①女性の働きやすい職場は男性が働きやすい職場でもある。②今の管理職の働き方では働き続けることは困難。仕事を続けるためには、長時間労働の是正が必要。③女性が参加しやすい組合活動は、男性も参加しやすい。④自らがロールモデルになる。自らが楽しく組合活動に取り組むこと、やりがいを後輩に伝えることが、次に続く女性役員を育てることになる。④マイナスを差し引いても余りあるプラス面があれば組合活動に参加する。⑤組合活動をやったと良かったという達成感が必要、⑥組合役員を担って成長して職場に戻れるということは男女共通



第3グループ



第9グループ

で必要」等の意見が各グループから共通して出された。

■グループワークへのコメント（西原議長）



西原金属労協議長

第1グループのグループワークと一緒に参加した西原議長がコメントを行い、「皆で活動の前進を図りましょう。皆さんの本日の女性交流集会での意見、思いを断ち切らせないことを約束する」と述べた。

■全体総括（西野委員）



西野金属労協常任幹事

西野ゆかり金属労協常任幹事（基幹労連中央執行委員）が全体総括を行い、「今回の女性交流集会の大きな特徴点は、組合活動に焦点が当たり、組合活動を自分達が変わっていかうという機運が高まってきたことだ。それは、女性の役割が重くなってきたからではないか。自分達の意識を前向きにすれば変えることができる。ここに参加した私たち自身がロール・モデルになろうという意見を心強く感じた」「金属労協の政策にも、これまでの女性交流集会の意見が活かされ、女性にかかわる政策が取り上げられている。引き続き発信してほしい。今日のを皆さんの活動にも活かしていただきたい」等と述べた。

■閉会挨拶（若松事務局長）



若松金属労協事務局長

最後に、若松英幸事務局長が閉会挨拶を行い、「今日は、素晴らしい女性が多いと実感できた。さまざまな人の努力で今がある。沢山のひとと話をすることが大切である」「インダストリアルでは、ジェンダーバランスを重視し、女性参画比率30%を目標としている。金属労協でも少なくとも20%は参画しなければならないと考えている。労働運動をいきいきと継承することが大切だ」と述べ、閉会した。全員で記念撮影を行い、お互いの健闘を誓い散会した。



2012年度IMF-JC女性交流集会（2012年4月21日、電機連合会館）参加者全員での記念撮影